

目的 本発表は従来取り組んできた現代型衣生活成立過程に関する研究の一環としておこなうものである。今回は下着に注目し、主にこれまで余り問題とされなかった着用者側の動向を取り上げ、今日の下着観成立までの過程とその特徴をあきらかにする。

方法 1951年から1990年までの雑誌・新聞に掲載された2603件の関連記事をもとに、名称・形態・流行動向・着用者の意識等の点について、詳細に検討し論及をおこなう。

結果 洋服が広く着用されるようになった1950年代においても、表着に比べ、下着に対する人々の注目度・理解度は低いものであった。このことは第一に、名称の混乱・表記の不統一からあきらかにすることができる。当時、下着は主に保温・衛生面から着用された。しかし、同年代後半から60年代前半にかけてファッションへの関心が高まり、ラインを強調する流行により、体型補正として各種の下着が注目されることとなった。それはこの時期に、以前よりも関連記事の掲載頻度が高まることからあきらかである。記事のなかで着用上の不満点をあげるものも多い。この問題はその後、ポリウレタン繊維をはじめ、素材の開発・改良によって解消された。もちろん、サイズ・デザイン・縫製上の検討がなされたことも大きい。現在では体型補正に加え、下着にソフト感を求める傾向がみられるようになった。これは従来のラインを重視するのみのファッションから、自然・健康・カジュアル・本物というような感覚・志向を象徴するファッションの登場によって新たな下着観が成立したためといえよう。それに伴い、下着が素材・色・文様等について多様化した。その結果、従来の補正機能と、それに矛盾するソフトな着用感のどちらか一方、あるいは双方を満足できるものを求める今日の下着観が成立した。